

<2 月総評>

不安定な世界情勢を思わせる作品がチラホラとしてきました。こういうとき言葉はどう動き、どんなふるまいをするのか。目が離せません。しかし、どんなテーマやどんなモチーフでも、優れた作品にはすべてに通底する、社会に対して訴えるものがあると信じます。

<作品>

仲直りせず初雪を赤い靴

---

長谷川柊香 宮城県

——赤とは決意を表す色。揺れる心を振り払って、純白の初雪に一步を踏み出す。

好きだとは言えない

距離に落ち着いて

手持ち花火を見つめるばかり

---

さいう 愛知県

一言えない距離を選んだのは自分自身か、そうさせた相手なのか。少しでも動けば火玉は落ちる。膠着状態の心理を表す花火の比喻は見事。

じだんだをうまく踏めない

いもうとが

抱きしめている

かいじゅうずかん

---

さいう 愛知県

—本人にも分からない幼い欲望を表すものとして、妹が抱いている「かいじゅうずかん」はこれ以上無いほどの確なものだろう。

糖衣

世界が比喩であふれていく

---

立花ばとん 東京都

—なぜか言いたいことが言えず、砂糖でくるんだような表現があふれる現在の世界。この場合の「比喩」は世界をズラすために使われる甘い言葉にぴったり。

殻の中から

わたしの心を手渡して

信じるときは赤鬼になる

---

豊富 瑞歩 茨城県

—固く守った殻の中から無防備で柔らかい果実のような心を手渡す。もし裏切られれば鬼になるだろう。

短詩縦書き重力をいかになく

---

中矢 温 東京都

—世界の言語の中でも今や縦書きは珍しい。漢語さえ正式表記は横書きの現在、日本語の詩は下へ下へと覆うように重力を増していく。

門壊れドアが叩かれ獣来る

その瞬間に弾丸込める

---

小林紅石 埼玉県

—専守防衛とは不思議な言葉だ。反撃能力も同じく。そのとき言葉はどこにどうしている。

難しい方の「お」です、

そう「を」です。

しゃがんで蟻を見てみたいな

---

マズルカ 山口県

—楽しい発見。象形文字が母語でよかった！

ゆっもらも ゆもっも

と花震わせる

あおむしの幽霊のうたたね

---

永山 逢海 神奈川県

—オノマトペもここまでくると幽霊になってしまう。

(1945年を何度でも)

ぬぐいつづける夏のスノップ

---

大嶋 碧月 石川県

—敗戦を終戦と読み替え、マスコミの記事は例年まったく同じに見える。

しゃぼん玉とんで  
ふれてはならぬもの

---

土田 真央 滋賀県

——完璧に美しいゆえに触れられないもの。有るけれども所有できないもの。

菜箸の上の方持つ雪女

---

菊池 洋勝 栃木県

——菜箸の持ち方だけで、超自然の存在である雪女の姿をここまで彷彿とさせる。俳句の力に改めて感嘆。

夢またの名呪いまたの名春の泥

---

白石 孝成 広島県

——そうありがたい夢の自分と、あらねばならないという呪い。春の泥のようにぬかるみ、夢であるだけに至るところで足をとられる。